

(別紙様式)

令和5年度学校評価の実施状況等調査

学校名	中部農林高等学校(全日) 中部農林高等支援学校
記載者名	島袋美加

1 自己評価を実施した人数

	校 長	教 頭	事務長	教 諭	事 務	その他	計
実施人数	1	2	1	63	0	0	67

※その他 ()

2 学校関係者評価を実施した人数

	学校評議員	PTA役員	その他				計
実施人数	1	0	0				1

※その他 ()

3 外部アンケート等を実施した人数

	保護者	生徒	その他				計
実施人数	149	207	0				356

※その他 ()

4 学校評価結果の公表方法等(該当項目に○、複数回答可)

自己評価	①ホームページ	②学校便り	③保護者への説明会	④その他(スクリレ)
学校関係者評価	①ホームページ	②学校便り	③保護者への説明会	④その他()

5 令和4年度の学校評価を踏まえ、令和5年度改善した点 (いじめ問題に関すること等)

①校則に関する意見・要望を踏まえた校則の見直し
②行事に関する意見・要望を踏まえた行事の簡素化
③発信・連絡に関する要望を踏まえた周知方法の工夫(HPやスクリレ、Teams等の活用)
④職員間の連絡・情報共有の改善・ゆとりある業務の在り方を踏まえたTeamsの更なる活用
⑤授業でのPCの利用に関する意見・要望を踏まえ、ICTを活用した授業研究・研修の実施

6 令和5年度の学校評価で明らかになった課題

①生徒と職員の良い関係づくり(生徒)
②登校時の安全確保(保護者)
③ホームページの充実(保護者)
④働き方改革を踏まえた校務分掌の見直し(職員)
⑤法律と遵守についての指導(評議員)

7 令和5年度の学校評価を活かした令和6年度の改善点

①生徒の実態や感情に配慮した対応の工夫(研修の実施を含めた取組)
②送迎時の校内徐行に関する文書周知と徐行運転の掲示
③生徒の活躍や月行事等のアップがスムーズにできるような体制づくり
④行事や校務分掌内容の簡素化や精選の工夫
⑤学校教育全体を通して、法律と違法・罰則、法を守ることの大切さの指導

沖縄県教育委員会教育長 殿

沖縄県立中部農林高等学校
校長 新垣 博之
(公印省略)

令和5年度県立学校学校評議員の運営状況について(報告)

令和5年12月12日付け教県第1744号により依頼のありましたみだしについて、下記のとおり報告します。

記

1 日時、場所、出席状況等

第1回	日時	令和5年7月11日(火) 16:00~17:00	場所	農場部会議室	出席 状況	評議員:2人、校長、教頭3名、事務長、 進路・教務・生徒指導主任、農場長
第2回	日時	令和5年12月12日(火) 16:00~17:00	場所	農場部会議室	出席 状況	評議員:5人、校長、教頭3名、進路主 任、教務主任、生徒指導主任、農場長
第3回	日時	令和6年3月15日(金) 16:00~17:00	場所	定時制課題研修室	出席 状況	評議員:3人、校長、教頭3名、進路・ 教務・生徒指導主任、農場長

2 学校評議員に求めた事項

- ① 生徒の学校生活全般に関すること
- ② 学校の活性化に向けた取り組みについて(資格取得の呼びかけ確認)
- ③ 進路(進学・就職)指導の向上の取り組みについて
- ④ 地域との連携連携や特色ある農業教育・福祉教育の取り組みについて
- ⑤ 校則(三ない:運転(免許)させない・しない・取らさない)の見直しについて
- ⑥ 定時制教育全般について
- ⑦ 高等特別支援学校全般について

3 学校評議員の意見

- ① 自立した社会人、他人に迷惑をかけないなど、何らかの影響を与えられる学校であってほしい。
- ② 全国高校生国際シンポジウム(ドラゴンフルーツ研究)での文部大臣賞受賞は快挙である。プロジェクト学習を通して主体的な研究の推進を実施している。これからも生徒の活躍の場を期待している。
- ③ 免許取得は、法律上可能なので、学校としての校則づくりを考えて指導して欲しい。
- ④ SNSトラブルやITリテラシー系の研修は、学年1回では少ないのではないか。法律に則った指導、法律違反のラインをしっかりと伝えて守っていくことをちゃんと指導していく工夫が必要。
- ④ 全日、定時、高支が揃って、月1回の職員会議を持っていることは、校内全体の協力体制の推進につながっている。他校では聞かない取り組み、とても素晴らしい。

4 学校運営に反映した事項

- ① 課題研究やプロジェクト学習において生徒が主体的に学び、協力して課題解決に取り組むことで、思考力や判断力を養うことができ、生徒の肯定感が高まり自信につながった。
- ② 資格取得や課外授業を推進し、生徒が「自ら学ぶ」ことの大切さを醸成することができた。
- ③ 高校卒業時に進路が決定していることの有利性を伝えた。最終進路決定率は100%となる予定。
- ④ 生徒個々の特性に応じた支援を講じることで、より効果的に指導することができた。
- ⑤ 学校施設および学習環境での安全・安心を確保することで、生徒の「居場所づくり」ができた。

5 課題その他

- ① 校則については、社会規範、学校を踏まえ、適切に改善すること。(子供の権利(意見)を反映させる)
- ② SNS等の研修方法について、生徒一人一人がしっかり理解し実行できるような工夫が必要。
- ③ 学校の掲げる教育目標の達成、育成すべき生徒像の育成を強力に推進すること。
- ④ 関係機関との連携、活用方法を確認すること。
- ⑤ タブレット学習における教職員の授業力を高めること。